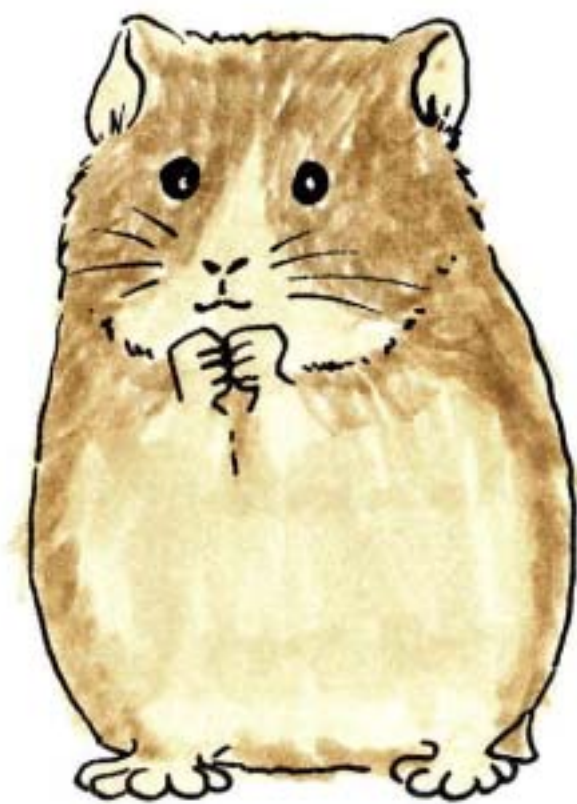


学校飼育動物 のかいかた (ハムスター編)



長野県動物愛護センター

ハローアニマル

〒384-0041小諸市大字菱平字前新田2725

TEL. 0267(24)5071

FAX. 0267(26)3282

ハムスターのからだ

ハムスターは、2～3年生きている。 毎日よく観察して、正しい様子を覚えておこう。

め
少ない光でも見える。
でも視力はあまりよくない。
色も白黒にしか見えない。



みみ
とても敏感で、人間には聞こえない音も聞くことができる。
だから、大きな音は苦手。

は
一生のびつづける。歯の数は、全部で16本。



ほおの両側に、食べ物を一時的にたくわえ、巣に運ぶための頬ぶくろがある。



おなかの両わきに臭いを出すところがあり、こすりつけて臭いをつける。

まえあし
指は4本、とても器用に物をつかむことができる。



お(しっぽ)短い。

うしろあし
指は5本、まえあしより大きくしっかりしていて、立ち上がることも得意。



ハムスターから見たら人間はかいじゅう...

ハムスターは、体が小さくて、とても怖がりだから、びっくりさせないようにしよう。

ハムスターは、気温が5より下がると動けなくなってしまうので、冬は寒くならないように工夫しよう。



オス



メス

オスとメスの見分け方

2ヶ月くらいするとメスはオスより大きくなる。それ以前にオスとメスを見分けるのはとても難しい。

オスは、生殖器(オチンチン)と肛門(お尻の穴)のあいだがはなれている。

メスは、生殖器と肛門のあいだがあまりはなれていない。

ハムスターのたべもの

ハムスターは、何でもよく食べますが、
おもに、**ハムスター専用フード**をあげよう。
新鮮な**やさい・くだもの・専用おやつ**も少しあげよう。

ハムスター専用フード
ハムスターには、バランスのとれた市販のフードが便利。1日1回、1匹あたり10gを与えよう。



ミネラルを補給するために、塩土をあげよう。

ハムスター専用おやつ
歯をすりあわせて食べる物も入っているの、歯ののびすぎを防ぐ。



みず
毎日とりかえよう。
容器(入れもの)は、ボトルタイプがよい。



種子・こく物

ひまわりの種、らっかせい、とうもろこしなど。
秋から冬にかけて与えよう。
ただし、脂肪分が多いので与えすぎないように注意しよう。



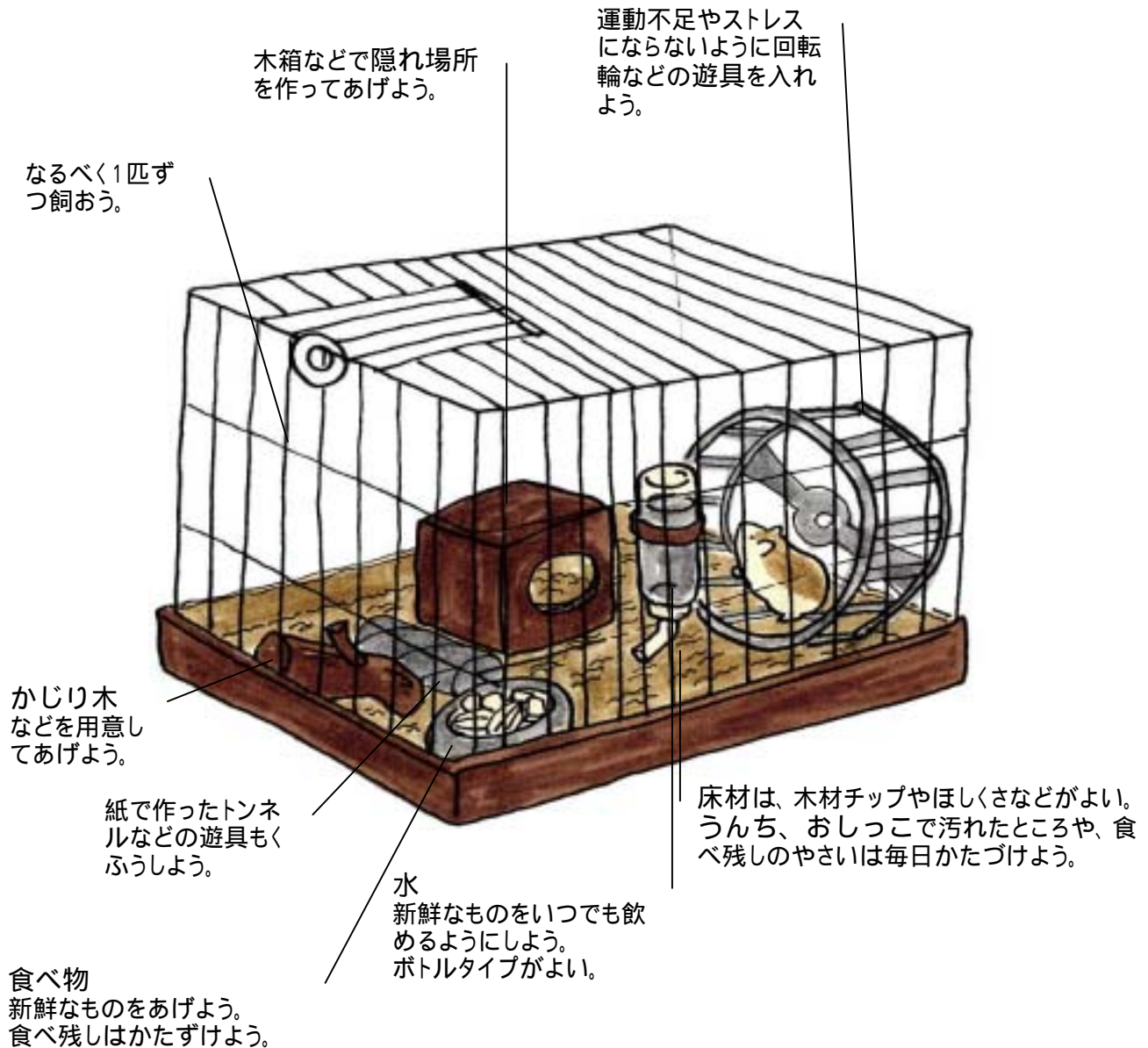
やさい・くだもの・くさ
水分の少ない緑黄色野菜を中心にバランスよくあげよう。レタス、キャベツ、ハクサイなどは与えすぎに注意しよう。

あげてはいけないもの

ジャガイモの芽や皮、ネギ、玉ねぎ、ニラ、ニンニク、アサガオ、スイセン、わらび、毒の野草、人間の食べているおかしなど



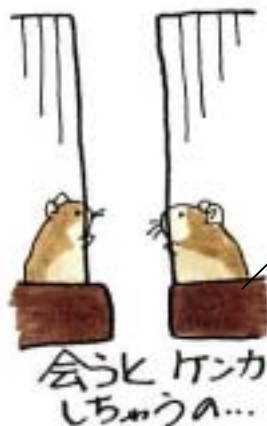
ハムスターのおうち



ハムスターは、室内で飼ってあげよう。
温度18～26 くらいがいちばんよい。
また、ひとつの入れものにたくさん飼うと、ケンカしてケガをしたり病気になりやすくなるので、なるべく1匹ずつ飼おう。

ハムスターのあかちゃん

おとなのオスとメスを一緒にするとあかちゃんがうまれる。(オスはうまれてから2ヶ月半、メスは2ヶ月でおとなになる)
増やしたくない場合は、必ずオスとメスを分けて飼おう。



妊娠(あかちゃんがおなかにいる)期間は13~18日間。
妊娠したらオスとメスは分けて飼おう。



メスは妊娠すると巣作りを始める。
暗くて静かなあかちゃんをうむへや(木箱など)を用意してあげよう。
ケージに布をかぶせて暗くし静かにそっとしておこう。
そうじはしないようにしましょう。

ハムスターは1回に4~16匹のあかちゃんをうむ。
うまれたばかりのあかちゃんは、目が開いていない。毛もはえていない。3週間くらいまではぜったいのぞき込んだり、触ったりしないようにしましょう。あかちゃんに人間のにおいがつくと、子育てをやめてしまったり、あかちゃんを食べてしまったりする。

生まれて3週間すぎたら、少しずつさわっても大丈夫。



うまれてから2~3週間まではお乳で育つ。

ハムスターのだきかた

片方の手をおしりにそえ、もう片方の手で前足のつけ根のところを支え、下からそっとすくい上げるように抱き上げよう。足がぶらぶらすると怖がるので、自分の体につけて安心させてあげよう。

